



アート・コム・ウッド ベーシック・デッキⅢ・X

施工要領書（化粧材）



●製品概要

化粧材は、人工木材で作られています。人工木材は、木粉約50%+ポリプロピレン並びにポリエチレン樹脂他約50%を原料として押し出し成型により生産されます。

人工木材は、天然木材が持つ欠点であるひび割れ、ささくれ、腐食などを軽減した素材で特にエクステリアに向いています。

加工は一般的な木工道具で行えますが、圧縮強度が大きいので釘打ちを行いますと割れやすいのでビス留めを行います。その時、化粧材にはドリルで下穴をあけドリルビスを使用しましょう。

ベーシック・デッキでは、ドリルビス使用を標準工法にしています。

化粧材並びにアルミ根太にドリルビスを使用する時、化粧材には3.5φの下穴をあけアルミ根太を切削するスピードに合わせてビスを押し込んでいきます。強く押し込みますと化粧材が割れる場合もありますのでご注意下さい。

この製品は温度により伸縮し、その量は概ね熱線膨張率として $3.5\sim 4.3\times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$ となります。従いまして材料表面の夏冬の温度差を 50°C としますと、デッキ材1m当たり $1000\text{mm}\times 4\times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}\times 50^{\circ}\text{C}=2\sim 2.5\text{mm}$ に相当します。

又、樹脂特性としての解放応力によるがありますが、内部応力の徐放による伸びが要因になります。この徐放は2～3回の夏場を過ぎると収束に向かいます。

その内部応力開放に伴う膨張の量は、 $\Delta l=2.5\sim 4\times 10^{-3}$ です。つまり材料1mあたり約2.5mm～が解放応力による膨張の可能性がります。

●これらの伸びによるトラブルを防止するために、デッキ化粧材1枚の最長寸法を1995mmとし、横目地の間隔を5～6mm程度にします。

① 化粧材の取付け

- ・化粧材位置の墨出し

1.割付に従い、化粧材貼り出し位置に墨出しする。

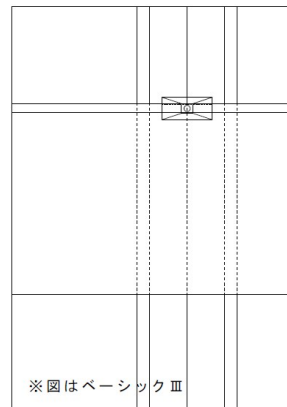
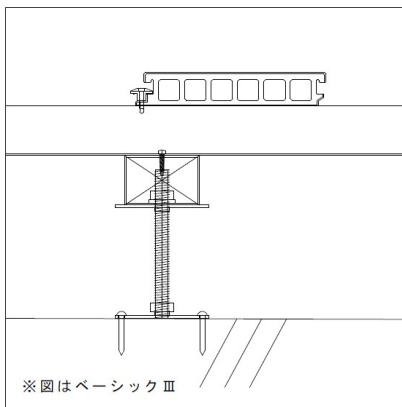
※取付け誤差による歪みを防止する為、基本的に施工箇所の中央から取り付ける。

※現場状況、割付等により貼り出し位置を決定する。

- ・化粧材の取付け

1.化粧板を取付け位置に合わせ、サネ側に取付部品を使用し仮止めをする。

※仮止めの位置は根太中央の溝に合わせる。



2.仮止めをした化粧材のミゾ側に取付部品を引っ掛け、次の化粧材のサネ側をあて合わせて

取付部品のビスを締め固定する。

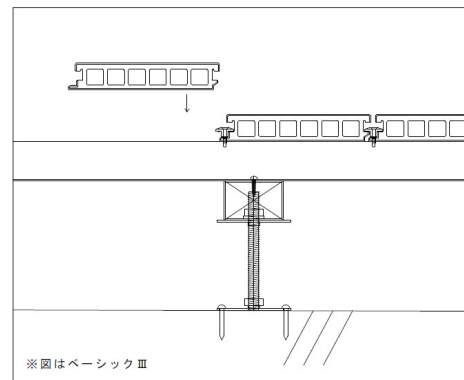
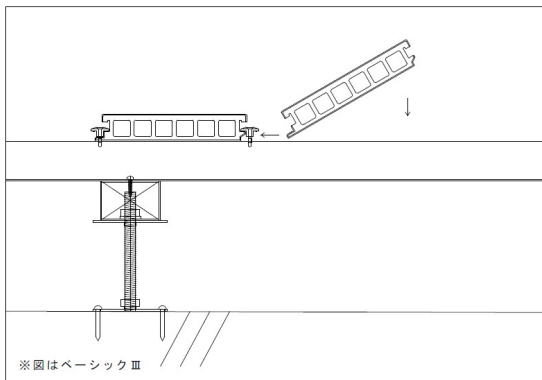
※取付部品は根太中央の溝に合わせる

※化粧材のジョイント部分は取付部品をジョイントの芯に取り付ける。

※化粧材のあて方によって平行に誤差が生じる場合があるので 20 列に一度計測を行い確認する。

3.反対側は仮止めをした取付部品を一旦外し、次の化粧材のミゾ側に引っ掛け

サネ側に合わせ固定する。



● 端部取付け

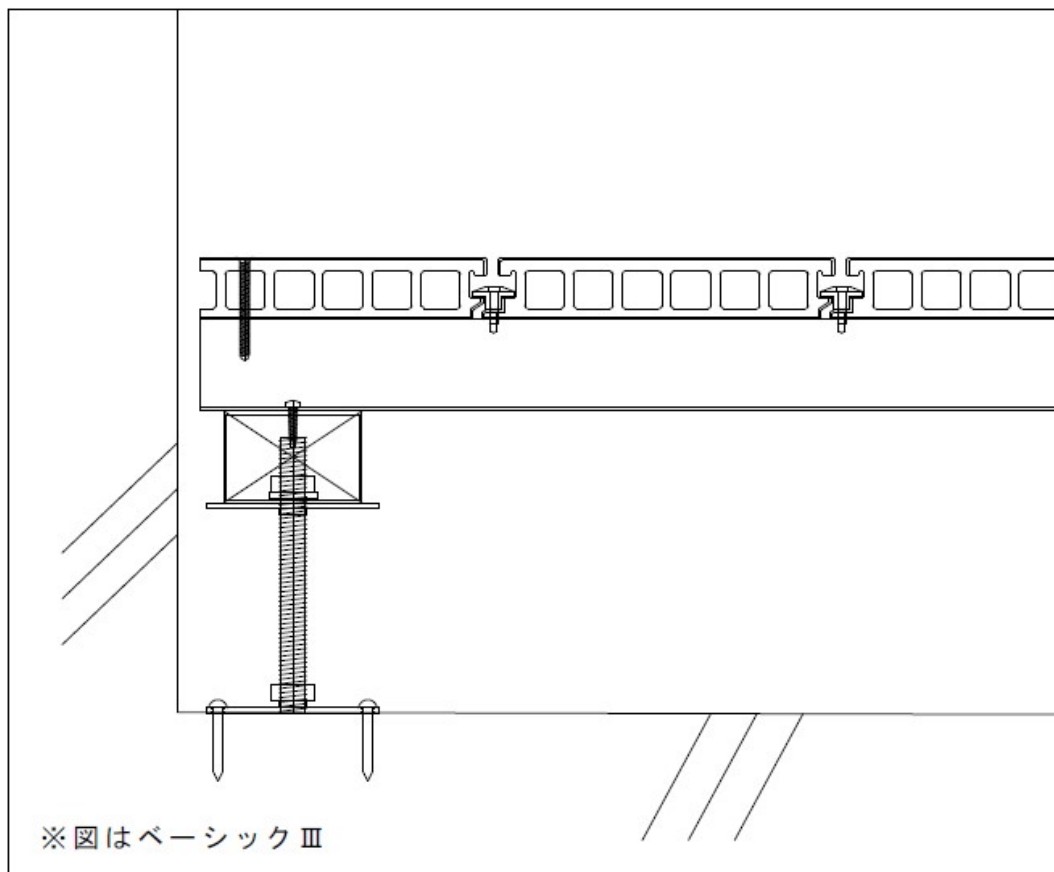
1.化粧材を寸法に切断する。

※壁際、サッシ際等建物とのクリアランスは 10 ミリ程度とする。

2.化粧材のビス取付け位置に下穴(4.5φ)を開け、皿穴加工(表面で 10φ)する。

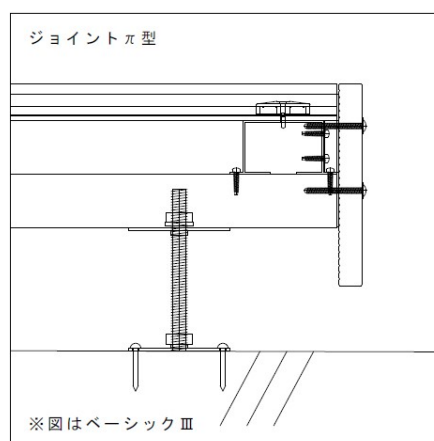
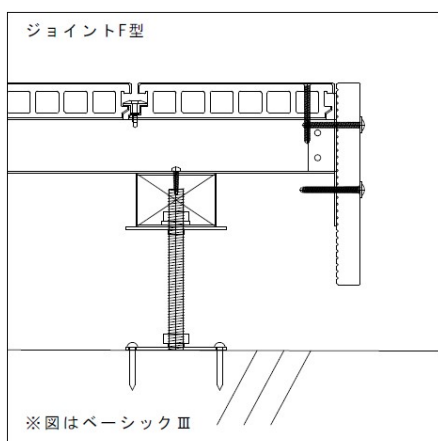
3.セルフドリリングビス皿頭ブロンズを使用し、固定する。

※ ビス位置は、端に近いリブの内側。



●幕板

- 1.根太または大引きにジョイントπ型またはジョイントF型を取り付ける。
- 2.幕板を寸法に切断し、下穴(4.5φ)を開け皿穴加工(表面で10φ)する。
- 3.セルフドリリングビス皿頭ブロンズを使用し、固定する。



① 注意事項

※夏場などは化粧材の熱伸びによる変化が大きいため、化粧材はなるべく直射日光の当たらない場所に保管する。

※冬場の気温の低いときは、樹脂が硬くなり、ビス打ちや切断の際破損する可能性があるので注意をして作業をする。